

平成 30 年度 名古屋市立大学国際学会発表成果報告書

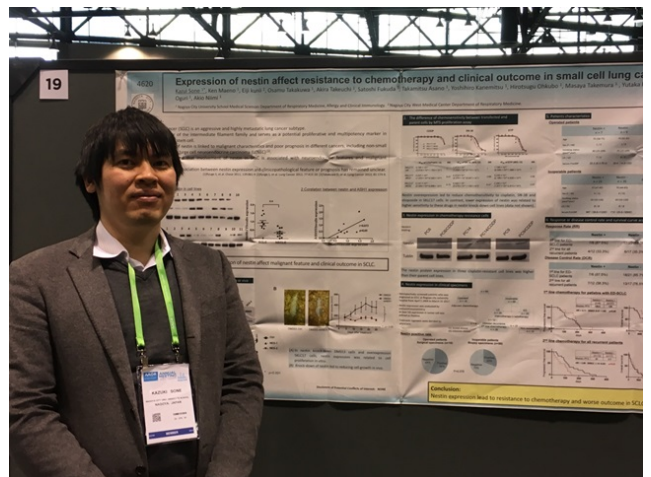
◆第 1 次 No.1

| | |
|----------|--|
| 【所 属】 | 医学研究科 博士課程 3 年 |
| 【氏 名】 | 中 嵩 晃一朗 |
| 【学会の名称】 | PARTICLE THERAPY CO-OPERATIVE GROUP (PTCOG) 57th ANNUAL CONFERENCE (世界粒子線治療会議) |
| 【研究発表報告】 | <p>今回、大学院からの国際学会発表支援をいただくことにより、アメリカ シンシナティにて行われたPTCOGという粒子線治療に関する国際学会で”Drosophila melanogaster as a useful model organism to study biological effects of proton radiation”のテーマでOral presentationをさせていただく機会を得ることが出来ました。陽子線治療の持つ基礎生物学的な特徴を国際学会で発表できたことは私自身にとっても非常に価値のある経験であったと感じております。この場を借りて関連の皆様方に対して感謝申し上げます。</p> |



◆第 1 次 No.2

| | |
|----------|---|
| 【所 属】 | 医学研究科 博士課程 4年 |
| 【氏 名】 | 曾 根 一輝 |
| 【学会の名称】 | American Association for Cancer Research (AACR) (米国癌学会) |
| 【研究発表報告】 | <p>AACR (American Association for Cancer Research)は癌の基礎・橋渡し研究領域において世界的に最も権威のある国際学会の一つで、今回は4月14日から4月18日に年次大会が開催されました。今回神経幹細胞マーカーnestinと小細胞肺癌の悪性化および治療耐性化との関連について発表させていただきました。各国の研究者とインタラクティブに議論でき、国内学会では獲得しづらい有意義で貴重な経験ができ、また今後日々自己研鑽のモチベーションを高める良い機会となりました。</p> |



平成 30 年度 名古屋市立大学国際学会発表成果報告書

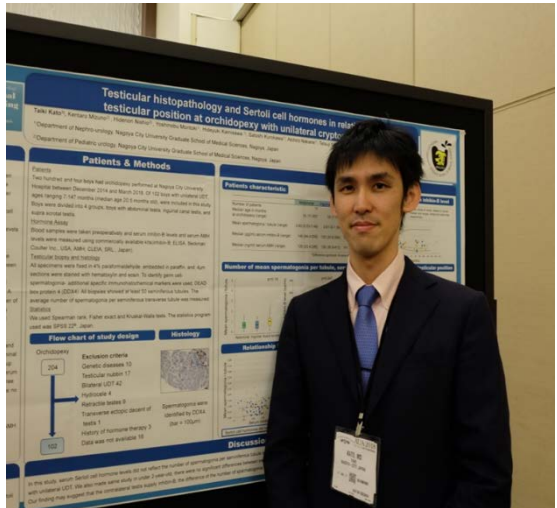
◆第 1 次 No.3

| | |
|----------|---|
| 【所 属】 | 医学研究科 博士課程 4 年 |
| 【氏 名】 | 海野 怜 |
| 【学会の名称】 | American Urological Association Annual Meeting 2018 (アメリカ泌尿器科学会総会2018) |
| 【研究発表報告】 | <p>今回は発表も含め経験は、今後の基礎研究をする上で様々な知識を得ることができ非常に充実したものとなりました。</p> <p>現在行っている基礎研究をもとに、臨床において結石の新規治療薬開発にむけて取り組んでいきたいと思ひます。</p> <p>研究をご指導いただいた様々な先生方に感謝するとともに、今後研究を含めより一層精進していきたいと思ひます。</p> |



◆第 1 次 No.4

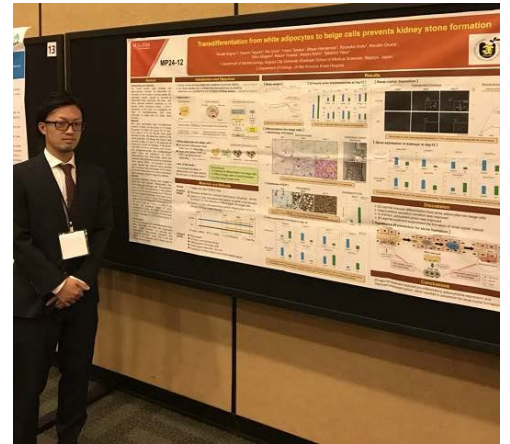
| | |
|----------|---|
| 【所 属】 | 医学研究科 博士課程 3 年 |
| 【氏 名】 | 加藤 大貴 |
| 【学会の名称】 | 113 th American Urological Association Annual Meeting (アメリカ泌尿器科学会) 66 th The Societies for Pediatric Urology (アメリカ小児泌尿器科学会) |
| 【研究発表報告】 | <p>現在私は臨床研究医として臨床に携わる傍ら、大学院生として停留精巣の基礎研究を行っています。AUA/SPUは世界各国からその道のスペシャリストが参加し発表を行うため、自身の発表をするだけでなく、他の先生方の発表を聴講することで非常に刺激をうけました。アメリカからの発表は、国内の小児病院の共同研究による大規模データの発表が多く、日本でもデータ収集に力を注いで、エビデンスを蓄積する必要があることを痛感しました。今回得た知識を明日からの臨床や今後の基礎研究のヒントとして取り組みたいと思ひます。このような機会に支援をいただきました名古屋市立大学国際学会発表支援事業に深く感謝をいたします。</p> |



平成 30 年度 名古屋市立大学国際学会発表成果報告書

◆第 1 次 No.5

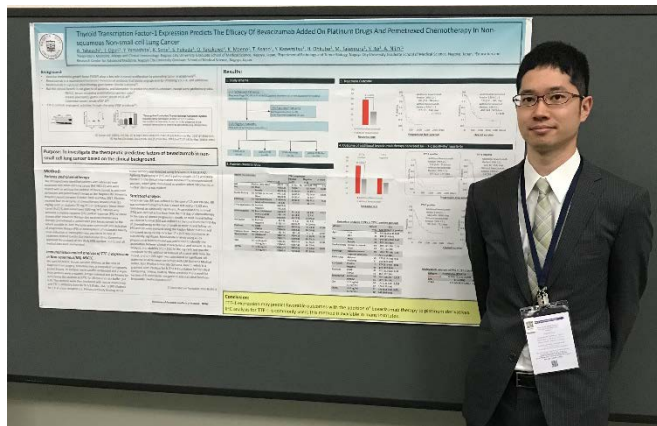
| | |
|----------|---|
| 【所 属】 | 医学研究科 博士課程 3 年 |
| 【氏 名】 | 杉野 輝明 |
| 【学会の名称】 | 113 th American Urological Association Annual Meeting (アメリカ泌尿器科学会) |
| 【研究発表報告】 | <p>American Urological Association(AUA:アメリカ泌尿器科学会)は年に一度開催され、世界各国の泌尿器科医が日々の基礎・臨床研究やガイドラインなど、最新の知見を発表する場です。本年の開催地はカルフォルニア州サンフランシスコで、どのセッションにおいても非常に活発な議論が行われていました。</p> <p>上記学会にて私は、「Transdifferentiation from white adipocytes to beige cells prevents kidney stone formation(白色脂肪細胞からベージュ細胞への分化が尿路結石形成を抑制する)」の演題を発表しました。大学院生として進めている基礎研究内容になりますが、発表に対する質問やポスター前でのディスカッションを通して、新しい観点からの質問・指摘をいただき、当研究が現在抱えている問題や検討すべき課題が明らかになりました。</p> <p>現在私は、関連病院で臨床業務に携わる傍ら、大学院生として尿路結石の基礎研究を行っています。今回の学会において、自らの発表のみならず世界各国の先生方の発表内容からも多くの刺激を受けました。この経験は、大学院生としての基礎研究はもちろんのこと、日々の日常臨床にも還元できるものだと感じています。</p> |



平成 30 年度 名古屋市立大学国際学会発表成果報告書

◆第 1 次 No.6

| | |
|----------|--|
| 【所 属】 | 医学研究科 博士課程 3 年 |
| 【氏 名】 | 竹内 章 |
| 【学会の名称】 | ATS 2018 International Conference (米国胸部疾患学会) |
| 【研究発表報告】 | <p>2018/5/18-2018/5/23にアメリカのSan Diegoで開催されたATS 2018 International Conferenceに参加し、『Thyroid Transcription Factor-1 Expression Predicts The Efficacy Of Bevacizumab Added On Platinum Drugs And Pemetrexed Chemotherapy In Non-squamous Non-small-cell Lung Cancer』というテーマで発表を行いました。通常のポスター発表に加えて、今回はポスターディスカッションとして演題の要約の発表を行い、各国のファシリテーターや臨床医などから様々な意見をいただき、ディスカッションを行うことができました。また、本テーマは米国胸部腫瘍グループよりabstract awardに選出され、表彰を受けるという名誉もいただきました。今後の研究活動を行う上で非常に有意義な学会であり、こういった機会を授けていただいた教室の皆様、および支援をいただいた名古屋市立大学国際学会発表支援事業に感謝を申し上げます。</p> |




◆第 1 次 No.7

| | |
|----------|--|
| 【所 属】 | 医学研究科 博士課程 4 年 |
| 【氏 名】 | 安間 三四郎 |
| 【学会の名称】 | 18 th ESSKA Congress (第18回ヨーロッパスポーツ外傷・膝手術・関節鏡学会) |
| 【研究発表報告】 | <p>本学会ではヨーロッパにおける膝関節鏡手術の最先端の研究について学ぶことができとても有意義な時間を過ごすことができました。また、英語でのoral発表という貴重な機会を頂き、緊張感を持って臨むことができた我々がやっている治療や研究を世界に向けて発信できるよう英語でのコミュニケーション能力向上の必要性を感じた。現在我々がやっている研究をさらに発展させ次の機会にその成果を発表できるよう努力していきたい。</p> |



平成 30 年度 名古屋市立大学国際学会発表成果報告書

◆第 1 次 No.8

| | |
|----------|--|
| 【所属】 | 医学研究科 博士課程 2 年 |
| 【氏名】 | 川西 佑典 |
| 【学会の名称】 | 18th ESSKA Congress (第18回ヨーロッパスポーツ外傷・膝手術・関節鏡学会) |
| 【研究発表報告】 | <p>様々な国籍や人種の参加者がいるなかでの学会に参加させていただき、多くの貴重な経験をすることができた。今回得られた成果を生かし、今後さらに研究をすすめ結果を出すことができるように努力していきたい。</p> |
| |  |

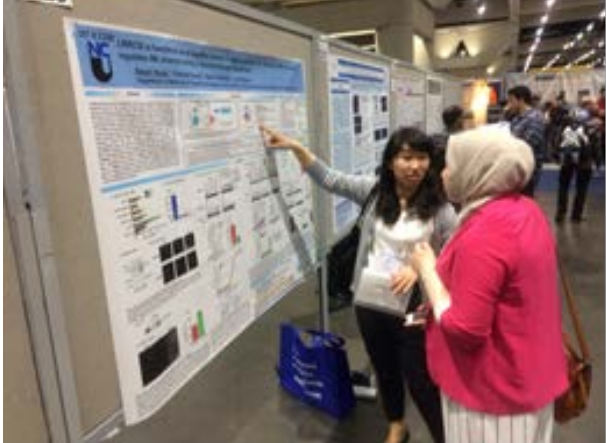
◆第 1 次 No.9

| | |
|----------|---|
| 【所属】 | 医学研究科 博士課程 4 年 |
| 【氏名】 | 益田 秀之 |
| 【学会の名称】 | International Investigative Dermatology 2018 (国際研究皮膚科学会2018) |
| 【研究発表報告】 | <p>フロリダ・オーランドで開催されたIID2018 (International Investigative Dermatology) に参加した。IIDは5年に1回開催されるSID (米国研究皮膚科学会)、JSID (日本研究皮膚科学会)、ESDR (欧州研究皮膚科学会) の3学会が合同で開催する学会。我々の発表内容は光を用いた皮膚治療に関するもの。質疑応答や関連する研究発表等に関するディスカッション等を通し、非常に有益な経験をすることができた。</p> |
| |  |

平成 30 年度 名古屋市立大学国際学会発表成果報告書

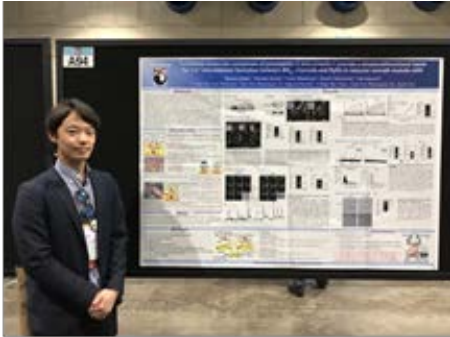
◆第 1 次 No.10

| | |
|----------|---|
| 【所 属】 | 薬学研究科 博士課程 3 年 |
| 【氏 名】 | 野田 さゆり |
| 【学会の名称】 | Experimental Biology 2018 (実験生理学会2018) |
| 【研究発表報告】 | <p>私は、2018 年 4 月にアメリカのサンディエゴで開催された Experimental Biology 2018に参加しました。Experimental Biology 2018はアメリカの5つの学会が合同開催している学会であり、世界中から多くの研究者が参加し、最新の研究成果の発表・議論が行われていました。私は自分の研究成果をポスターで発表しました。海外研究者と研究について積極的に意見を交わし、今後の研究に活かすことが出来る有意義な時間を過ごすことが出来ました。</p> |



◆第 1 次 No.11

| | |
|----------|--|
| 【所 属】 | 薬学研究科 博士後期課程 3 年 |
| 【氏 名】 | 佐伯 尚紀 |
| 【学会の名称】 | Experimental Biology 2018 (実験生理学会2018) |
| 【研究発表報告】 | <p>サンディエゴで開催されたExperimental Biology 2018に参加し、ポスター発表を行いました。日頃から訓練してきた英語プレゼンテーション力を活かして、多くの研究者と議論して意見を交換することができ、私自身の研究を世界に発信することができました。</p> <p>また、私の研究と極めて類似した研究を行うグループと出会ったことには、とても驚かされました。国外に出たことで研究競争の厳しさを肌で感じる事ができ、非常に貴重な経験となりました。</p> |



平成 30 年度 名古屋市立大学国際学会発表成果報告書

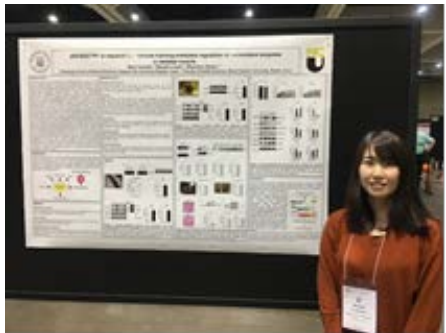
◆第 1 次 No.12

| | |
|----------|---|
| 【所 属】 | 薬学研究科 博士課程 4 年 |
| 【氏 名】 | 奥村 啓樹 |
| 【学会の名称】 | International Society for Stem Cell Research (ISSCR) Annual Meeting 2018 (国際幹細胞学会2018) |
| 【研究発表報告】 | <p>私はオーストラリア・メルボルンで開催されたInternational Society for Stem Cell Research (ISSCR) Annual Meeting 2018に参加し、ポスター発表を行いました。本学会では、ES/iPS細胞に限らず様々な組織の幹細胞を用いての様々な研究が発表されており、自分が研究を行う分野外にも視野を広げる良い経験となりました。また、英語での討論を行う中で、自分の考えを伝える語学力の重要性を痛感しました。今回得られた経験を、日々の勉学・研究活動に活かステップアップしていきたいと思います。</p> |



◆第 1 次 No.13

| | |
|----------|---|
| 【所 属】 | システム自然科学研究科 博士後期課程 1 年 |
| 【氏 名】 | 山田 麻未 |
| 【学会の名称】 | Experimental Biology 2018 (実験生物学2018) |
| 【研究発表報告】 | <p>2018年4月21～25日にアメリカ・サンディエゴで開催されたExperimental Biology 2018に参加し、「p62/SQSTM1 is required for exercise training-mediated regulation of antioxidant enzymes in skeletal muscle」というテーマで発表致しました。世界各国の研究者が集う学会に参加でき、今後の研究発展に繋がる貴重な議論ができました。このような機会を与えて下さいました名古屋市立大学国際学会支援事業に深く感謝致します。</p> |



平成 30 年度 名古屋市立大学国際学会発表成果報告書

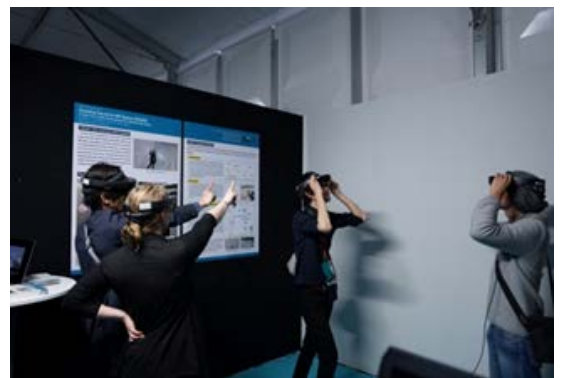
◆第 1 次 No.14

| | |
|----------|---|
| 【所 属】 | 芸術工学研究科 博士前期課程 2 年 |
| 【氏 名】 | 小松原 峻 |
| 【学会の名称】 | Laval Virtual 2018 (ラヴァル バーチャル 2018) |
| 【研究発表報告】 | <p>初めての国際学会の参加ということもあって、英語でのコミュニケーションや、展示準備など慣れないことも多かったが、海外ならではの意見や革新的な作品の展示も多く、とても参考になった。Laval Virtualはヨーロッパ最大級のVRイベントであるが、日本人の参加者も多くとても有意義な体験ができる会場であった。</p> |



◆第 1 次 No.15

| | |
|----------|--|
| 【所 属】 | 芸術工学研究科 博士前期課程 2 年 |
| 【氏 名】 | 太田 拓 |
| 【学会の名称】 | Laval Virtual 2018 (ラヴァル バーチャル 2018) |
| 【研究発表報告】 | <p>今回、VR/AR/MR (XR) に関するヨーロッパ最大級の国際イベントである「Laval Virtual 2018」にて、「Drawing Sound in MR Space」というテーマでデモ展示を行いました。展示では様々な方面からの貴重な意見を得ることができ、自身の研究制作活動に対しても大変貴重な経験となりました。また、初めての海外発表ということもあり、自身のコミュニケーション能力の向上にもつながったと思います。この経験を活かし、今後の研究制作活動に精進していきたいです。</p> |




平成 30 年度 名古屋市立大学国際学会発表成果報告書

◆第2次 No.1

| | |
|----------|---|
| 【所属】 | 医学研究科 博士課程 3 年 |
| 【氏名】 | Abdelgied Mohamed Ahmed Mahmoud |
| 【学会の名称】 | EUROTOX 2018 (ヨーロッパ毒性学会2018) |
| 【研究発表報告】 | <p>It was a truly inspirational experience participating in this conference as it added a lot to my knowledge and brought anew ideas to my mind.</p> <p>The conference discussed recent knowledge in different areas of toxicology.</p> |
| |  |

◆第2次 No.2

| | |
|----------|---|
| 【所属】 | 医学研究科 博士課程 2 年 |
| 【氏名】 | 野村 研人 |
| 【学会の名称】 | 3 rd FARO annual meeting (アジア放射線腫瘍学会連合第3回学術大会) |
| 【研究発表報告】 | <p>今回、インドネシアのバリで開催された3rd FARO annual meeting(アジア放射線腫瘍学会連合第3回学術大会)に参加し「Clinical results of proton boost combined with pelvic IMRT for node-positive prostate cancer (リンパ節転移陽性前立腺癌に対する全骨盤 IMRT+陽子線ブースト照射の成績)」という演題名で発表する機会をいただきました。今後も継続して国際学会で発表できるよう精進していきたいと思ひます。</p> |
| |  |

平成 30 年度 名古屋市立大学国際学会発表成果報告書

◆第2次 No.3

| | |
|----------|---|
| 【所属】 | 医学研究科 博士課程 2 年 |
| 【氏名】 | 古田 好輝 |
| 【学会の名称】 | Cardiovascular and Interventional Radiological Society of Europe 2018 (欧州心臓血管・血管内治療学会2018) |
| 【研究発表報告】 | <p>平成 30年9月22～23日にポルトガル、リスボンにて開催されたCIRSE(Cardiovascular and Interventional Radiological Society of Europe)に参加させていただきました。Usefulness of 4D-CT in balloon-occluded retrograde transvenous obliteration (BRTO) for gastric varices(胃静脈瘤に対するBRTO術前の4D-CTの有用性)に関して発表し、最先端の知見に触れることができました。</p> |



◆第2次 No.4

| | |
|----------|--|
| 【所属】 | 医学研究科 博士課程 1 年 |
| 【氏名】 | 大場 翔太 |
| 【学会の名称】 | CIRSE 2018 (ヨーロッパIVR学会2018) |
| 【研究発表報告】 | <p>今回、私はヨーロッパIVR学会に初めて大学院生として参加し、研究成果の発表を行うことができました。これまでは学生あるいは研修医として、学会参加は受け身な姿勢な部分もありましたが、自分が研究するようになり、これまでとは違った新たな視点で経験する事ができました。私の発表はポスター発表でしたが、他のセッションなどに参加することもでき、幅広く情報収集し、今後の研究課題に活かせると感じました。</p> |



平成 30 年度 名古屋市立大学国際学会発表成果報告書

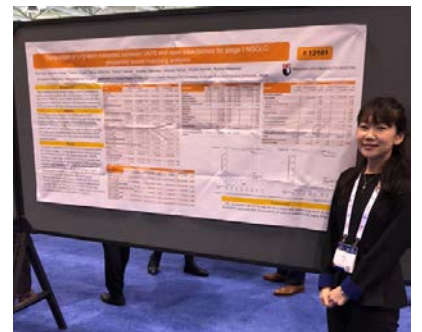
◆第2次 No.5

| | |
|----------|---|
| 【所 属】 | 医学研究科 博士課程 3 年 |
| 【氏 名】 | 坂東 勇弥 |
| 【学会の名称】 | CIRSE 2018 (欧州IVR総会2018) |
| 【研究発表報告】 | <p>CIRSE2018というIVRをテーマとした世界で一番大きな学会に参加いたしましたのでご報告いたします。採択率は40%と高くありませんが、発表させていただけることとなり参加することができました。今年ポルトガルのリスボンで開催され、各国から多くのIVR医が参加されていました。機器展示場も大変広く各社が最新機器を展示しておりました。また、実際に手にして最新のデバイスを扱うエリアもありました。私はEVAR術後のエンドリーク予測をshear waveエラストグラフィで予測するという演題で発表いたしました。発表した内容について複数の海外の先生方と議論でき、今後の論文作成に向けて大変有益な経験となりました。また、EVAR術後のエンドリーク予測に関する発表は他の先生方も多くされており、関心の高い領域と再確認できました。他の日本の先生方の発表も多く、受賞されている発表も多く大変刺激になりました。今後も熱心に研究に励んでいきたいと思っております。</p> |



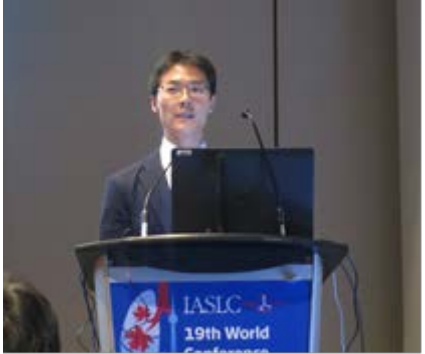
◆第2次 No.6

| | |
|----------|--|
| 【所 属】 | 医学研究科 博士課程 4 年 |
| 【氏 名】 | 小田 梨紗 |
| 【学会の名称】 | IASLC 19 th World Conference on Lung Cancer (第19回世界肺癌学会) |
| 【研究発表報告】 | <p>この度、2018年9月23日～26日にカナダのトロントで開催されたIASLC 19th World Conference on Lung Cancer（世界肺癌）にて発表、参加させて頂きました。本学会では肺癌などの最先端の内容が発表されていました。今回、私は早期肺癌に対する胸腔鏡手術の有用性を発表しました。各国の現状などを知ることが出来ましたので、今後の臨床、研究に役立てたいと思っております。</p> |

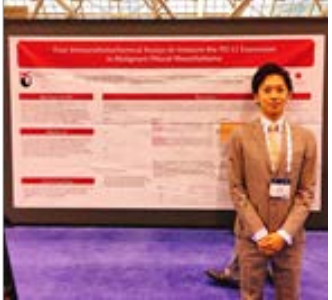


平成 30 年度 名古屋市立大学国際学会発表成果報告書

◆第2次 No.7

| | | |
|----------|---|---|
| 【所 属】 | 医学研究科 博士課程 3 年 | |
| 【氏 名】 | 坂根 理司 | |
| 【学会の名称】 | IASCL 19 th World Conference on Lung Cancer (第19回世界肺癌学会議) | |
| 【研究発表報告】 | <p>カナダ・トロントで開催された世界肺癌学会議で発表して参りました。世界各国からの高名な研究者、臨床医とのディスカッションはとても刺激的で、モチベーション維持や今後の研究の課題を明らかにする貴重な経験となりました。このような貴重な機会を頂きました名古屋市立大学国際学会発表支援事業と研究を指導して下さいました先生方に深く感謝いたします。</p> |  |

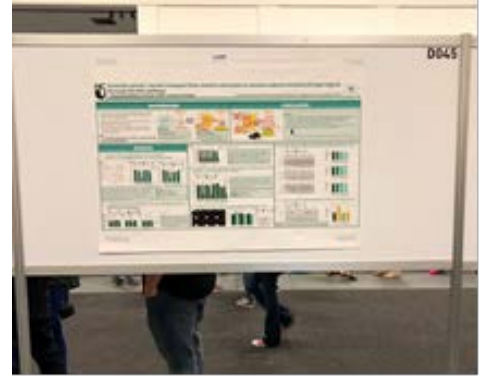
◆第2次 No.8

| | | |
|----------|--|---|
| 【所 属】 | 医学研究科 博士課程 3 年 | |
| 【氏 名】 | 渡邊 拓弥 | |
| 【学会の名称】 | IASLC 19 th World Conference on Lung Cancer (第19回世界肺癌学会) | |
| 【研究発表報告】 | <p>カナダ、トロントで行われたIASLC 19th World Conference on Lung Cancer (第19回世界肺癌学会) に出席し、悪性胸膜中皮腫の研究成果を発表しました。諸外国の医師から多くの質問を受け、充実したディスカッションとなりました。学会テーマは「Take Action Against Lung Cancer!」でした。世界中の医師がより良い治療に向け、努力している姿を目の当たりにし、自分もますますの努力が必要だと実感できました。</p> |  |

平成30年度 名古屋市立大学国際学会発表成果報告書

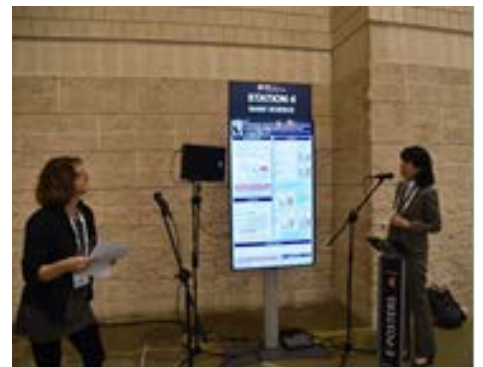
◆第2次 No.9

| | |
|----------|--|
| 【所属】 | 薬学研究科 博士課程2年 |
| 【氏名】 | 宮本 啓補 |
| 【学会の名称】 | 11th FENS Forum of Neuroscience (第11回欧州神経科学学会) |
| 【研究発表報告】 | <p>今回私が参加した学会は、欧州最大の神経科学学会であり、世界の神経科学を大きく発展させる内容の講演を数多く拝聴することができました。私が発表したポスターでは、世界各国の多くの研究者の方たちに興味を持っていただき、質問だけでなく、技術的なアドバイスも多くいただき、今後の研究方針の指標となりました。同時に語学力や国際コミュニケーション力も向上させることのできる国際学会は、研究者を志す私にとって、大きなスキルアップの場であり、来年度以降も積極的に参加・発表したいと思います。</p> |



◆第2次 No.10

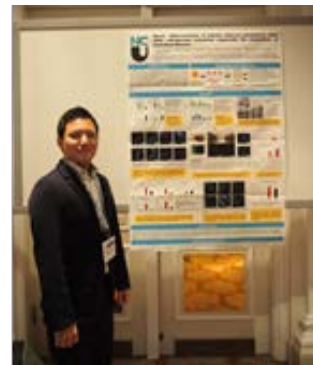
| | |
|----------|--|
| 【所属】 | 薬学研究科 博士課程2年 |
| 【氏名】 | 前田 琴美 |
| 【学会の名称】 | International Continence Society 2018 (国際禁制学会2018) |
| 【研究発表報告】 | <p>8月28日～31日にアメリカ・ペンシルベニア州のフィラデルフィアコンベンションセンターにて開催されたInternational Continence Society 2018 (国際禁制学会2018)に参加しました。英語での発表はとても緊張しましたが、世界各国から参加している研究者の前で自分の研究成果を発表できたことは非常に貴重な経験となりました。また、海外で行われている最新の研究結果を知ることもでき、良い勉強の機会となりました。今回の経験を今後の成長の糧にし、研究や英語の勉強などにより一層励んでいきたいと思ひます。</p> |



平成 30 年度 名古屋市立大学国際学会発表成果報告書

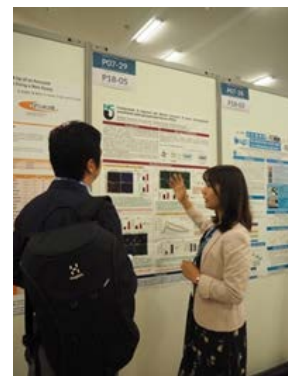
◆第2次 No.11

| | |
|----------|--|
| 【所属】 | 薬学研究科 博士課程 4 年 |
| 【氏名】 | 小野里 太智 |
| 【学会の名称】 | The 54th Congress of the European Societies of Toxicology (EUROTOX 2018) (第54回欧州毒性学会) |
| 【研究発表報告】 | <p>ベルギーのブリュッセルで開催された第54回欧州毒性学会に9月2日から5日まで参加し、ポスター発表を行いました。多くの海外研究者の方から意見、質問等を頂き、自分の研究に興味関心がもたれているということが非常に大きな自信となりました。一方、自分自身の語学力のなさから伝えたいことが伝えきれずに終わってしまう悔しさも味わいました。今後、国内外で活躍できる研究者になるためには語学力も欠かせないということに気づかされました。この経験を今後の研究にも生かしていこうと思います。</p> |



◆第2次 No.12

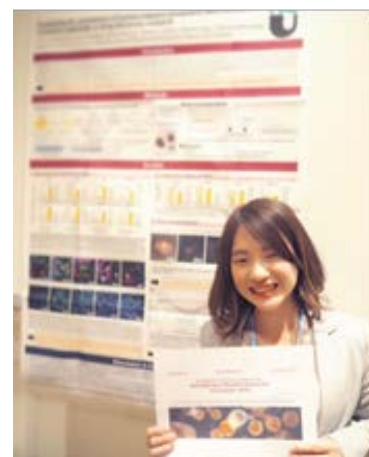
| | |
|----------|---|
| 【所属】 | 薬学研究科 博士前期課程 2 年 |
| 【氏名】 | 山下 美紗季 |
| 【学会の名称】 | The 54th Congress of the European Societies of Toxicology (第54回欧州毒性学会) |
| 【研究発表報告】 | <p>2018年9月2日から5日までベルギーのブリュッセルで開催されたThe 54th Congress of the European Societies of Toxicology (第54回欧州毒性学会)でポスター発表させていただきました。世界中から集まった研究者が活発に議論を交わしている様子に大変刺激を受けると共に、英語力の低さから自信が持てず、積極的になれない自分に悔しさを感じました。一方、多くの発表に触れることで世界のトレンドや科学技術に関して新たな知見を得ることができました。今回の経験を糧に、今後より一層研究活動と英語の勉強に励みたいと思います。</p> |



平成30年度 名古屋市立大学国際学会発表成果報告書

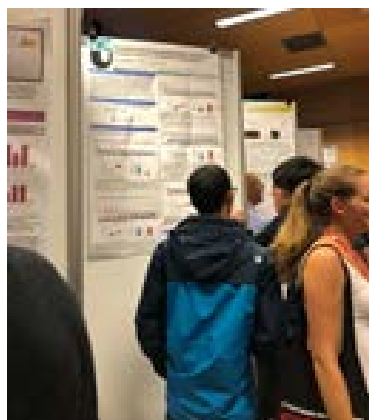
◆第2次 No.13

| | |
|----------|---|
| 【所属】 | 薬学研究科 博士前期課程2年 |
| 【氏名】 | 中西 杏菜 |
| 【学会の名称】 | The 54th Congress of the European Societies of Toxicology (第54回欧州毒性学会) |
| 【研究発表報告】 | <p>私は、9月2日から5日にベルギーのブリュッセルで開催された第54回欧州毒性学会に参加し、ポスター発表を行いました。“AstraZeneca Student Award for Innovation 2018”のファイナリストに選出して頂き、多くの海外研究者の方と自分の研究についてディスカッションすることができました。本学会を通して、世界中に自分の研究に興味を持って下さる方がたくさんいることを知り、今後研究を進める上での大きな自信へと繋がりました。また、はじめての国際学会で、英語で伝えることに不安がありましたが、長時間研究について英語で話し、聞くことで、最後には自分から積極的に話しかけに行くことができるようになりました。このように、英語を話す自信を与えてくれたという点でも本学会は貴重な経験になったと考えています。今回頂いた意見を参考に、これからも研究を進め、世界に発信していきたいと思えます。</p> |



◆第2次 No.14

| | |
|----------|--|
| 【所属】 | 薬学研究科 博士前期課程2年 |
| 【氏名】 | 山口 翔 |
| 【学会の名称】 | 17th European Drosophila Neurobiology Conference (第17回欧州ショウジョウバエ神経科学大会) |
| 【研究発表報告】 | <p>私は、ポーランドのクラクフで開催された17th European Drosophila Neurobiology Conferenceに参加し、ポスター発表を行いました。初めての国際学会ということもあり、とても緊張しましたが、多くの方々に自分の発表を聞いていただき、研究の発展につながる質問やアドバイスをいただくことができました。また、海外の最先端の研究について発表を聞き、ディスカッションをすることで、自分の視野を広げることもできました。本大会に参加して得られた経験を活かして、さらに研究や英語の勉強に力を入れていきたいと思えます。</p> |



平成 30 年度 名古屋市立大学国際学会発表成果報告書

◆第2次 No.15

| | |
|---------|--|
| 【所 属】 | 薬学研究科 博士前期課程 1 年 |
| 【氏 名】 | LIU JIN (リュウ シン) |
| 【学会の名称】 | GPEN 2018 (グローバル 薬学教育ネットワーク 2018) |
| 【学会の名称】 | この学会で私はペグ化リポソームドキシソルビシンを局所送達する3Dプリントされた生体適合性ヒドロゲルパッチの作製というテーマで発表しました。発表した後に研究について深くディスカッションして勉強になりました。GPEN 2018 は私人生初めて参加する学会です。初めて英語の口頭発表を挑戦し、初めて研究の話題を通して知らない学生と先生達が仲良く友達になりました。研究の検討、文化の交流、この学会に参加していい経験になりました。学会に優秀な人材を集まって、自分の不足も改めて分かりました。英語力アップすること、研究はもっと頑張ること、人生計画はもっと勇気を出すことなどです。一言で言えば、学会は自己能力を認識するところでも自己潜在能力を発掘するところです。この学会に参加してとても楽しかったです。 |



◆第2次 No.16

| | |
|----------|--|
| 【所 属】 | 経済学研究科 博士後期課程 3 年 |
| 【氏 名】 | 久保 吉人 |
| 【学会の名称】 | R&D Management Conference 2018 (2018年 研究開発マネジメント国際会議) |
| 【研究発表報告】 | <p>R&D Management (技術管理論: Management of Technology) 分野の研究発表において、日本(の学会)で関心を引く内容と、海外(今回のR&Dマネジメント国際会議)で関心を引く内容との差異を強く感じました。自身の口頭発表においては、日本ではそれほど注目を浴びていない、「大企業における従業員の起業家的行動」についてもっと詳細に説明(記述)すべき、とフロアからのコメント指摘を受けて、貴重な気づきを得ることができました。社会人大学院生の弊員においても、このような国際会議への参加支援を与えていただきました河合篤男教授、ならびに名古屋市立大学に深く感謝申し上げます。</p> |



平成 30 年度 名古屋市立大学国際学会発表成果報告書

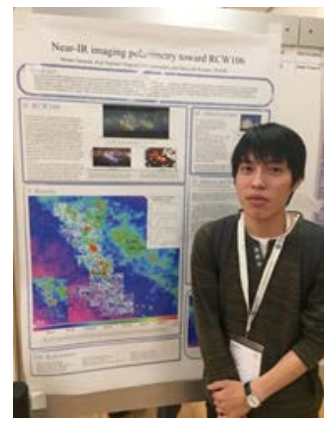
◆第2次 No.17

| | |
|----------|---|
| 【所 属】 | 人間文化研究科 博士前期課程 2 年 |
| 【氏 名】 | 内田 将平 |
| 【学会の名称】 | EECERA (ヨーロッパ幼児教育学会) |
| 【研究発表報告】 | <p>私は、2018年8月28日～31日にハンガリーのブダペストで開催された第28回EECERA(ヨーロッパ幼児教育学会)に参加し、研究成果を発表しました。この研究発表が国内・国際学会問わず自分にとって初めての学会発表であったので、学術的な場で研究成果を発表する意義や面白さを学ぶことができました。また、私の研究テーマがドイツの幼児教育に関することであったこともあり、多くのドイツ人研究者や学生とドイツ語で意見を交わすことができました。ドイツで幼児教育を研究している彼らから、自分とは異なった視点からの意見を直接頂くことができたことは、今後の研究への非常に有益な助言になりました。</p> <p>今回の学会で得られた知見をもとに、今後はドイツ国内の学会発表を目標にさらに研究に励んでいくとともに、より一層ドイツ語の能力も向上させていきたいと思えます。</p> |




◆第2次 No.18

| | |
|----------|---|
| 【所 属】 | システム自然科学研究科 博士前期課程 2 年 |
| 【氏 名】 | 玉置 捷平 |
| 【学会の名称】 | XXXth General Assembly of the International Astronomical Union (国際天文学連合総会) |
| 【研究発表報告】 | <p>私は8/28～8/31にXXXth General Assembly of the International Astronomical Union(国際天文学連合総会)のFocus Meeting “Magnetic fields along the star-formation sequence” にてポスター発表を行いました。自らの研究に関する意見はもちろん、あまり触れることのない分野についても世界の第一線で活躍されている方々の発表から学ぶことができ、大変貴重な経験を積むことができました。また、海外での学会ということで英語には非常に苦心したということもいい経験になりました。これを糧に自分の研究内容についてぐらいはしっかり英語でも主張できるようにしていこうと思えます。</p> |




平成 30 年度 名古屋市立大学国際学会発表成果報告書

◆第3次 No.1

| | |
|----------|---|
| 【所 属】 | 医学研究科 博士課程 4 年 |
| 【氏 名】 | 小栗 雄介 |
| 【学会の名称】 | Société Internationale de Chirurgie Orthopédique et de Traumatologie (SICOT : 国際整形災害外科学会) |
| 【研究発表報告】 | <p>2018年10月10日から10月13日まで行われたSICOT（国際整形災害外科学会）に参加しました。臨床や基礎研究に関わる上で海外の最新の知見を得ることが出来たのは、大変勉強になり自分の財産となりました。</p>  |

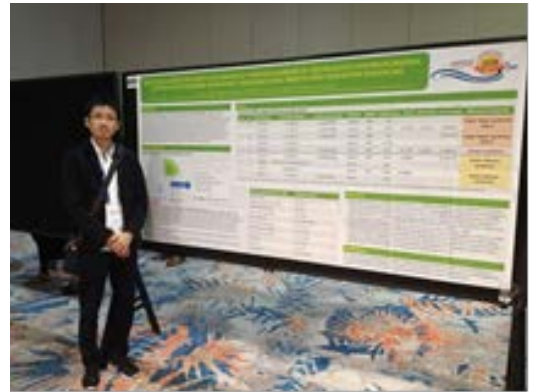
◆第3次 No.2

| | |
|----------|--|
| 【所 属】 | 医学研究科 博士課程 2 年 |
| 【氏 名】 | 丹羽 正成 |
| 【学会の名称】 | 2018 ASTRO Annual Meeting (アメリカ放射線腫瘍学会2018学術集会) |
| 【研究発表報告】 | <p>今回、大学院から国際学会発表支援をいただくことにより、アメリカのサンアントニオで行われたASTROという、放射線治療国際学会で” Long-term Results of Radiation Therapy for Ocular Adnexal Mucosa-Associated Lymphoid Tissue Lymphomas”のテーマでポスター発表をさせていただく機会を得ました。世界最大の放射線治療学会で発表を行い、最新の研究結果を共有できたことは、非常に貴重な経験であったと感じています。この場を借りて関係者の皆様方に対して感謝を申し上げます。</p>  |

平成 30 年度 名古屋市立大学国際学会発表成果報告書

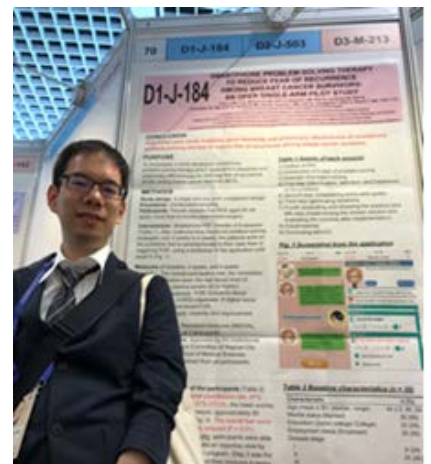
◆第3次 No.3

| | |
|----------|---|
| 【所 属】 | 医学研究科 博士課程 2 年 |
| 【氏 名】 | 伊藤 彰悟 |
| 【学会の名称】 | NASPGHAN ANNUAL MEETING 2018 (北米小児栄養消化器肝臓学会 総会) |
| 【研究発表報告】 | <p>2018年10月24日から27日にアメリカのフロリダ州ハリウッドで開催されましたNASPGHAN2018（北米小児栄養消化器肝臓学会総会）において「体質性黄疸責任遺伝子を含む61遺伝子パネルを用いた網羅的遺伝子解析」について発表を行ってまいりました。発表を通じ、世界の研究者と交流し意見交換をすることができました。今回得られた知見を活かして、今後も研究活動に従事していきたいと考えています。この度の国際会議への参加にあたりご支援をいただき、ありがとうございました。</p> |



◆第3次 No.4

| | |
|----------|--|
| 【所 属】 | 医学研究科 博士課程 4 年 |
| 【氏 名】 | 今井 文信 |
| 【学会の名称】 | the 20th International Psycho-Oncology Society World Congress of Psycho-Oncology (第20回国際精神腫瘍学会世界精神腫瘍学会) |
| 【研究発表報告】 | <p>2018年10月31日から11月2日まで香港で開催されたIPOS2018（国際サイコオンコロジー学会）参加させて頂きました。乳がんサバイバーの再発不安・恐怖に対するスマートフォンを用いた問題解決療法の予備的有用性についてポスター発表を行いました。初めての国際学会であり、日本とは異なる多種多様な人種と自分の英語力の低さにより雰囲気は圧倒されておりました。しかし、一所懸命ほかの方の発表を見て聞かせて頂き、世界的知見を少ないながらも得ることができ貴重な経験となりました。このような貴重な機会を与えていただいたすべての皆様に心より深く感謝いたします。</p> |



平成 30 年度 名古屋市立大学国際学会発表成果報告書

◆第3次 No.5

【所属】 医学研究科 博士課程 3 年

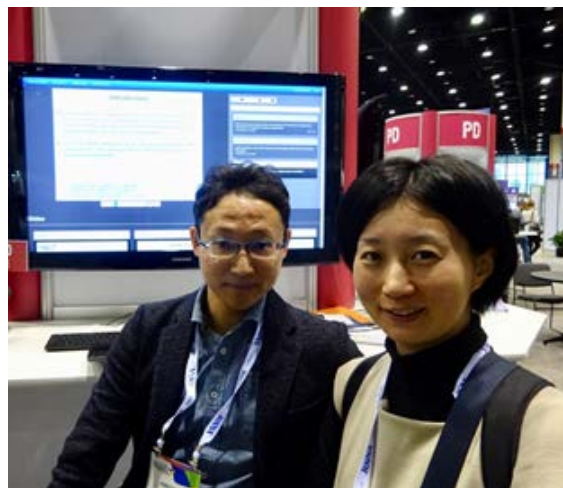
【氏名】 真木 浩行

【学会の名称】 Radiological Society of North America 2018
(北米放射線学会 2018)

【研究発表報告】

今回私は2018年11月25日から30日にアメリカ合衆国のシカゴで開催された北米放射線学会 (Radiological Society of North America : RSNA2018)に参加致しましたのでご報告いたします。

RSNAは2018年で第104回目の開催となる世界最大の放射線医学に関する学術大会です。今回のRSNAのテーマは、Tomorrow's Radiology Today でしたが昨年同様、主役はやはり“AI”, “Deep Learning / Machin Learning”でした。多くの研究発表、機器展示で“AI”というワードが使われました。



私は川崎病のCT所見に関する研究のポスター発表を行いました。川崎病は基本的には臨床症状による診断基準に従って診断されますが、10~20%の川崎病患者は、他の主症状を伴わず発熱と頸部リンパ節腫大で発症し、化膿性リンパ節炎として抗菌薬治療が開始される場合があります。この場合は抗菌薬治療抵抗性の原因検索として画像検査が施行され、4%の川崎病患にコンピュータ断層撮影 (CT)が施行されます。川崎病に特徴的な頸部CT所見として、咽頭後間隙の浮腫や咽頭後リンパ節腫大が報告されていますが、川崎病と非川崎病疾患との鑑別における頸部CTの有用性について検討は少ないです。今回の発表では川崎病と非川崎病疾患の頸部造影CTを比較し、スコアリングシステムを構築し、川崎病の診断に貢献することを目的としました。セッションが初日ということもあり、質問者は少なかったですが、川崎病のCT所見に関して非常に有意義なディスカッションができました。会場では教育講演、研究発表、ポスター発表、機器展示等の様々なセッションがあり、時間の許す限り参加しました。現在主流のAIやテクスチャー解析を取り入れた演題が大半でした。会場では画像診断へのAIの応用方法に関するハンズオンセミナーもあり大変勉強になりました。機器展示では最新鋭のCT、MRIの発表が多数あり、今後の研究に参考になりそうな新技術を多数勉強することができました。

平成 30 年度 名古屋市立大学国際学会発表成果報告書

◆第3次 No.6

| | |
|----------|--|
| 【所属】 | 薬学研究科 博士前期課程 2 年 |
| 【氏名】 | 大野 雄也 |
| 【学会の名称】 | The 8 th Nanjing/Nagoya/Shenyang Symposium of Pharmaceutical Sciences (第8回南京・名古屋・瀋陽薬学学術シンポジウム) |
| 【研究発表報告】 | <p>私は2018年10月25日から26日にかけて、南京市（中国）で行われたThe 8th Nanjing/Nagoya/Shenyang Symposium of Pharmaceutical Sciencesに参加し、Structure of a new Sesquiterpenoid isolated from <i>Colletotrichum gloeosporioides</i> Ls29Y0050, a Lycopodiaceae plant-derived endophytic fungusというテーマで口頭発表を行いました。</p> <p>初めての国際シンポジウムでしたが堂々と発表および質疑応答を行うことができ、また海外の研究者と交流して様々な意見をいただき、今後の自身の課題を見つける上でとても貴重な経験になりました。このシンポジウムで得たものを、今後の研究や学校生活に生かしていきたいと思います。</p> |



◆第3次 No.7

| | |
|----------|--|
| 【所属】 | 薬学研究科 博士前期課程 2 年 |
| 【氏名】 | 鈴木 卓馬 |
| 【学会の名称】 | The 8th Nanjing/Nagoya/Shenyang Symposium of Pharmaceutical Sciences (第8回南京・名古屋・瀋陽薬学学術シンポジウム) |
| 【研究発表報告】 | <p>今回、中国・南京で開催された「第8回南京・名古屋・瀋陽薬学学術シンポジウム」に参加し、研究成果について発表しました。英語で発表する初めてのシンポジウムであり、自分の研究成果について参加者の方々に伝えられるか不安でしたが、発表後の質疑応答から、発表した研究内容に興味を持っていただけたと思います、大変意義のある時間を過ごせたと感じております。このような機会を与えてくださった生薬学研究室の先生方ならびに名古屋市立大学国際学会支援に深謝するとともに、得られた知見を今後の研究により一層活かしていきたいと思っております。</p> |



平成 30 年度 名古屋市立大学国際学会発表成果報告書

◆第3次 No.8

| | |
|----------|---|
| 【所 属】 | 薬学研究科 博士前期課程 2 年 |
| 【氏 名】 | 竹中 理沙 |
| 【学会の名称】 | The 8 th Nanjing/Nagoya/Shenyang Symposium of Pharmaceutical Sciences (第8回南京・名古屋・瀋陽薬学学術シンポジウム) |
| 【研究発表報告】 | <p>私は南京において開催された国際シンポジウムに参加し、口頭発表をしてきました。国内外問わず多くの研究者との議論を通して、自身の研究について新たな気づきを得ることができました。また、自身の英語力の低さを痛感したので、今より英語力に磨きをかけたいと思います。</p> |



◆第3次 No.9

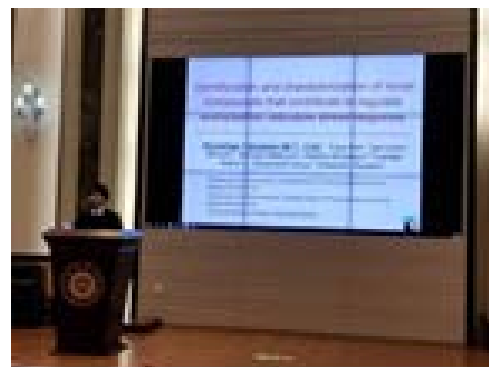
| | |
|----------|---|
| 【所 属】 | 薬学研究科 博士前期課程 2 年 |
| 【氏 名】 | 田嶋 柊也 |
| 【学会の名称】 | The 8th Nanjing/Nagoya/Shenyang Symposium of Pharmaceutical Sciences (第8回南京・名古屋・瀋陽薬学学術シンポジウム) |
| 【研究発表報告】 | <p>私は中国・南京において開催された国際学会に参加してきました。発表形式は口頭発表で、緊張と不安でいっぱいであったものの、非常に貴重な経験を得ることができたと思います。自分の研究に関する知識のみでなく、異なる分野における見解も広げることができました。一方で英語力の低さを痛感する場面も多くあったので、今後英語力を向上させ、こういった機会に挑戦していきたいと思いました。</p> |



平成 30 年度 名古屋市立大学国際学会発表成果報告書

◆第3次 No.10

| | |
|----------|---|
| 【所 属】 | 薬学研究科 博士前期課程 2 年 |
| 【氏 名】 | 徳川 宗成 |
| 【学会の名称】 | The 8 th Nanjing/Nagoya/Shenyang Symposium of Pharmaceutical Sciences (第8回南京・名古屋・瀋陽薬学学術シンポジウム) |
| 【研究発表報告】 | <p>本学会では、「小胞体ストレス」と呼ばれる、生物の細胞内における異常環境に着目した研究について発表した。小胞体ストレスは、近年様々な疾患の原因として注目を浴びていることから、小胞体ストレスを制御する化合物は疾患の治療につながる有用なツールとなり得る。そこで我々は、本ストレスを制御する化合物を探索、また同定し、そのさらなる解析により明らかにした当化合物の生理機能の一端を、本学会で発表するに至った。</p> |



◆第3次 No.11

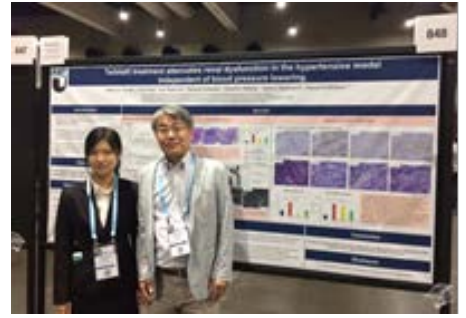
| | |
|----------|---|
| 【所 属】 | 薬学研究科 博士前期課程 1 年 |
| 【氏 名】 | 倪 昊 |
| 【学会の名称】 | The 8th Nanjing/Nagoya/Shenyang Symposium of Pharmaceutical Sciences (第8回南京・名古屋・瀋陽薬学学術シンポジウム) |
| 【研究発表報告】 | <p>名古屋市立大学の国際学会発表支援事業を利用して、中国江蘇省南京市で開催された第8回南京・瀋陽・名古屋薬学学術シンポジウムで、Inhibitory effect of Japanese traditional Kampo formula frequently prescribed in gynecological clinics on CYP3A4という題名で、口頭発表させていただきました。初めての国際学会への参加であったため不安でいっぱいでしたが、今後の課題を見つける上で、よい経験になりました。このような貴重な機会をいただき、大学関係者の方々に感謝申し上げます。</p> |



平成 30 年度 名古屋市立大学国際学会発表成果報告書

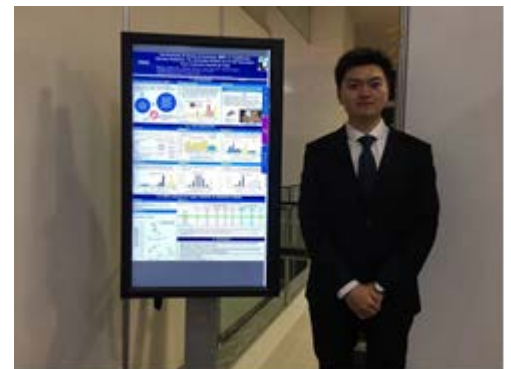
◆第3次 No.12

| | |
|----------|---|
| 【所属】 | 薬学研究科 博士課程 1 年 |
| 【氏名】 | 富田 なつみ |
| 【学会の名称】 | American society of nephrology kidney week 2018 (米国腎臓学会 2018) |
| 【研究発表報告】 | <p>10/25-28に開催された米国腎臓学会に参加し、ポスター発表を行いました。前回よりも研究のディスカッションを活発に行うことができ、自分にとって意義のある経験となりました。腎研究の最前線の発表を聞くことができ、学ぶことの多い学会となりましたが、自分の知識不足も痛感しました。今回の経験を今後自分の研究生活に活かし、日々努力してまいりたいと思います。</p> |



◆第3次 No.13

| | |
|----------|---|
| 【所属】 | 薬学研究科 博士前期課程 1 年 |
| 【氏名】 | 許 鑫 |
| 【学会の名称】 | The 19 th International Congress of Oriental Medicine (第19回国際東洋医学学術大会) |
| 【研究発表報告】 | <p>名古屋市立大学の国際学会発表支援事業を利用して、台湾で開催された第19回国際東洋医学学術大会において、Mechanisms of Honey-processing (蜜炙) in Traditional Chinese Medicine: Its Inducible Effects on G-CSF Secretion from Cultured Intestinal Cellsという題名で、ポスター発表させていただきました。初めての国際学会での発表であったため、不安でいっぱいでしたが、今後の研究の発展に繋がる大変貴重な経験になりました。今回の学会を通して、得られた知見や経験を励みに、研究生活に取り組んでいきたいと思っています。このような機会を与えて下さいました名古屋市立大学国際学会支援事業に深く感謝致します。</p> |



平成 30 年度 名古屋市立大学国際学会発表成果報告書

◆第3次 No.14

| | |
|----------|--|
| 【所 属】 | 薬学研究科 博士課程 3 年 |
| 【氏 名】 | 稲垣 佑都 |
| 【学会の名称】 | 6 th Nucleic Acids Conference (第 6 回核酸学会) |
| 【研究発表報告】 | <p>2019年2月13日から16日にかけて、バハマのナッソーで開催された6th Nucleic Acids Conferenceに参加し、ポスター発表を行いました。様々な海外の研究者や大学院生と交流し、研究内容についての話や将来の目標といった話をする事ができ、強い刺激を受けました。ここで得られた貴重な経験を糧に自身の研究を取り組んでいきたいと考えています。</p> |



◆第3次 No.15

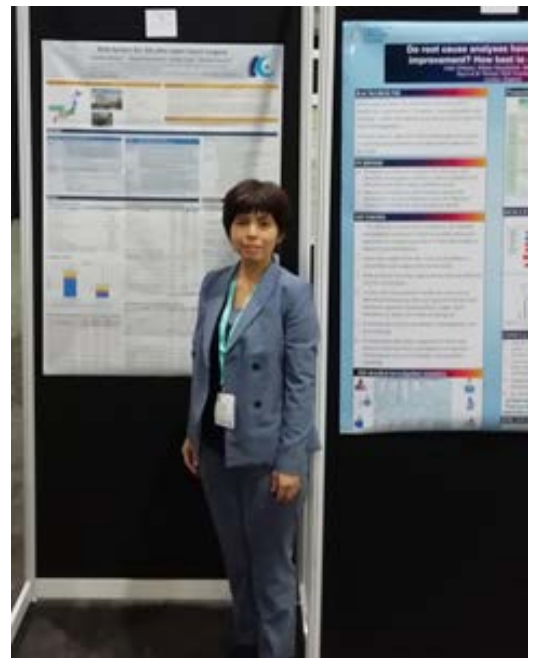
| | |
|----------|--|
| 【所 属】 | 芸術工学研究科 博士前期課程 2 年 |
| 【氏 名】 | 丸山 健太 |
| 【学会の名称】 | Asim 2018 (国際建物性能シミュレーション協会アジア会議) |
| 【研究発表報告】 | <p>香港理工大学にて行われた本学会は、建築物のエネルギー性能やシミュレーションなどに関するものであり、中国、韓国、日本を含む国から数多くの学者や研究者が集まり、口頭やポスターなどによる発表が行われた。私は建築物の空調システムのエネルギー消費量を30%削減することができる新しいシステムの提案に関する発表を行った。本提案システムは世界的にみても前例は無く、質疑応答の時間には会場から多くの質問が上がったが、国による気象条件の違いとそれによる空調設計思想の違いから、意思疎通に難しさを感じた。今回の経験を踏まえ、この研究をより良いものにしたいと思う。</p> |



平成 30 年度 名古屋市立大学国際学会発表成果報告書

◆第3次 No.16

| | |
|----------|--|
| 【所属】 | 看護学研究科 博士後期課程 3年 |
| 【氏名】 | 新改 法子 |
| 【学会の名称】 | The 11th Healthcare Infection Society International Conference (ヘルスケア感染学会国際会議) |
| 【研究発表報告】 | <p>私はこの度、名古屋市立大学大学院の国際学会発表支援事業の支援を受けて、イギリスリバプールで開催された「The 11th International Healthcare Infection Society (HIS) Conference」に参加する機会をいただきました。HISは医療機関における感染症予防および管理に関する知識と情報普及を目的とした団体が主催する学会です。医療関連感染制御がテーマで、内容は感染予防と管理、医療環境消毒管理、耐性菌制御、デバイスおよびSSI予防、抗菌薬など幅広いものでした。</p> <p>今回私は、大学院博士後期課程で取り組んでいる研究の一部で、「Risk factors for SSI after open heart surgery (開心後の手術部位感染発生に関するリスク因子の検討)」というテーマでポスター発表をしました。私が勤務する施設で実施した1579例の開心術データを解析し、SSIのリスク因子を明らかにした後、新病院移転前後におけるSSI発生率と、SSIケアバンドル遵守率の比較・評価した内容です。ポスター会場に集まった参加者からは、「ナイスな研究!」「日本には抗菌薬の制御に法的規制はあるの?」「外科医と連携するコツは?外科医に感染対策をどのように浸透させているの?」「ケアバンドルに挙げている対策を選んだ根拠は?」など、イギリスやケニア、中国、フィンランドなど様々な国と方と意見交換ができました。</p> |



平成 30 年度 名古屋市立大学国際学会発表成果報告書

◆第4次 No.1

| | |
|----------|--|
| 【所属】 | 医学研究科 博士課程 4 年 |
| 【氏名】 | 島村 泰輝 |
| 【学会の名称】 | 25 th European Congress of Radiology 2019 (第25回 欧州放射線学会) |
| 【研究発表報告】 | <p>ECRは欧州各国の放射線科医師が一堂に会する重要な学会であり参加意義は大きい。研究成果発表を世界に向けて発信できたことにより、日本のInterventional Radiology (IVR) のquality の高さを報告することができた。</p> <p>また、欧州における放射線科学会の最高峰の一つに触れることで先進的な研究や製品を見ることができ、今後の研究戦略や読影への貢献、IVRにおける機器の提案の一助となった。</p> <p>一つ一つの症例を大切に、大学院を通じて指導を受けることで海外を含めた学会発表に繋がられたことを実感する。大学院の支援は海外学会参加へのモチベーションアップの一つになった。大変貴重な機会を授けて下さったことに深く感謝致します。</p> |



◆第4次 No.2


| | |
|----------|---|
| 【所属】 | 薬学研究科 博士後期課程 1 年 |
| 【氏名】 | 高 天翔 |
| 【学会の名称】 | 2019 Asia-Pacific Drosophila Neurobiology Conference (2019 アジア太平洋ショウジョウバエ神経科学研究会) |
| 【研究発表報告】 | <p>発表の様子を示す写真です。</p> <p>当時は、周りの人は、日本、台湾、韓国、様々なところから来た人がいました。特に、ここの韓国人は、僕の発表内容へ非常に興味を示し、30分くらい、かなり長い時間で滞在したことは未だに覚えています。そのほか、後ろの台湾の人にも意識高く、学部生だけど、中央研究所のラボー内で手伝いながら、自分の研究を進める人でした。まだまだ努力足りなくて、研究頑張ります。</p> |



平成 30 年度 名古屋市立大学国際学会発表成果報告書

◆第4次 No.3

| | |
|----------|---|
| 【所 属】 | 看護学研究科 博士前期課程 2 年 |
| 【氏 名】 | 吉野 亜沙子 |
| 【学会の名称】 | East Asian Forum of Nursing Scholars (東アジア看護学フォーラム) |
| 【研究発表報告】 | <p>国際学会に参加したことで、他国における保健・医療・看護の現状と課題を学ぶことができました。そこから、日本における問題点や課題も見つけることができ、今後の学術研究に活かしていきたいと思いました。また、背景の異なる多国籍の参加者とともに保健・医療・看護について共に考え意見交換をしたことで、多角的な視点を養うことができ、非常に有益な経験をすることができました。今後も積極的に国際学会に参加し、知見を高め、幅広い視野で事象を捉えられるようになりたいと思いました。</p> |



◆第5次 No.1

| | |
|----------|--|
| 【所 属】 | 医学研究科 博士課程2年 |
| 【氏 名】 | 森田 麻希 |
| 【学会の名称】 | 6th conference of Asian Society of Head and Neck Oncology (第6回アジア頭頸部腫瘍学会) |
| 【研究発表報告】 | <p>今回、初めて国際学会へ参加致しました。英語での口頭発表が初めてであったこともあり、スライド作成から原稿の準備まで始終悩みの種でした。発表直前まで練習を重ねたことで、質疑応答にもどうにか対応でき、無事終えることが出来ました。今回の学会参加は全てが真新しく、とても新鮮で貴重な経験となりました。このような機会をいただき、支援いただいた皆様に感謝致します。</p> |



平成 30 年度 名古屋市立大学国際学会発表成果報告書

◆第5次 No.2

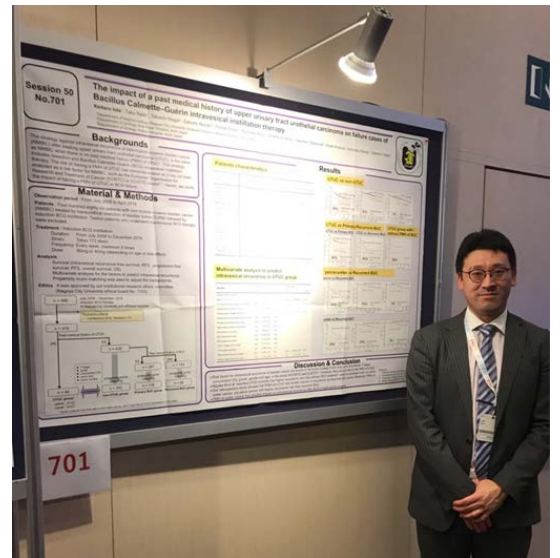
【所属】 医学研究科 博士課程4年

【氏名】 飯田 啓太郎

【学会の名称】 2019 EAU annual congress
(ヨーロッパ泌尿器科学会総会)

【研究発表報告】

2019年3月15日～19日にバルセロナで開催された2019 EAU Annual congressに参加しました。学会では、昨年からの大規模studyや新薬の最新情報の提供や、今後新しく始まるstudyの紹介が注目を集めていました。ヨーロッパだけではなくアジア各地域やアメリカからの参加者も多く、その国ならではの社会背景や医療保険を考慮した治療の紹介もあり、興味深いものばかりでした。私は学会3日目に"The impact of a past medical history of upper urinary tract urothelial carcinoma, UTUC on failure cases of Bacillus Calmette-Guérin intravesical instillation therapy"という題目で発表しました。今までにBCG膀胱内注入療法後の再発を予測する因子は、腫瘍の進達度や悪性度といったものが報告されていますが、腎盂癌や尿管癌といった上部尿路癌の既往を検討した研究はありませんでした。今回私は、多施設間においてBCG治療を行った474名の膀胱癌患者のなかで、上部尿路癌の既往がある群と既往のない群に分けて予後を後方視的に検討し、上部尿路癌の中でも特に尿管癌の既往がある群はBCG治療後の再発率が高いことを報告しました。昨年、日本泌尿器科学会とヨーロッパ泌尿器科学会の交換留学プログラムでRoderick Van der bergh先生と Igor 先生が当院に短期留学されましたが、本学会でその両先生と再会することができたことも国際交流の点において非常に良かったと思います。今後も新たな発見や研究成果を国際学会で発表するとともに、幅広く国際交流も行っていきたいと思っています。



平成 30 年度 名古屋市立大学国際学会発表成果報告書

◆第5次 No.3

| | |
|----------|---|
| 【所属】 | 薬学研究科 博士前期課程 2年 |
| 【氏名】 | 森 泰毅 |
| 【学会の名称】 | 21 st Congress of The European Society for Sexual Medicine (第21回ヨーロッパ性機能学会) |
| 【研究発表報告】 | <p>私はスロベニア・リュブリャナで開催された21st Congress of The European Society for Sexual Medicineに参加し、ポスター発表を行いました。性機能分野でも基礎研究から臨床研究までさまざまな研究が行われ、視野が広がるとともに今後の研究への刺激をもらう貴重な経験となりました。今回、国際学会発表支援をいただいたことに心より感謝申し上げます。</p> |

